



上白石にあった宇都宮牧場の模範牛舎とサイロ（大正3年撮影）

酪農の勉強のためアメリカへ

慶応2年(1866)に大分県下毛郡大幡村(今の中津市)で生まれた宇都宮仙太郎は東京の私立東京神田共立学校(校長・高橋是清)に入学し、明治18年(1885)に19歳で北海道に渡り、札幌県立真駒内牧場(後の真駒内種畜場)の実習生となった。場長は後の北海道知事町村金吾の父、町村金彌だった。

英文が読める仙太郎はアメリカの原書で研究したが、分からないことも多く、本格的な勉強をするために明治20年に渡米し、ウイスコンシン州立農事試験場や州立短期大学で学んだ。

本場の酪農技術を身につけて明治23年に帰国すると、町村金彌は雨竜蜂須賀農場の支配人になっており、彼に招かれて牛担当係長となった。この農場は侯爵である菊亭・三条・蜂須賀三家の共同経営で始まったが、間もなく三条侯の死で閉鎖された。

翌24年、仙太郎は町村金彌から牛2



アメリカのウイスコンシン大学附属農場

頭と金200円を借り、札幌の北1条西15丁目の現在の道立近代美術館付近で牧場の経営を始めた。市乳の販売と、民間人としては初のバター製造を行い、豊平館に納入した。

組合を結成し飼料を共同仕入れ

明治25年(1892)、仙太郎は10数人の乳牛業者とともに札幌牛乳搾乳業組合を設立した。別名ビール粕組合と呼ばれたが、それは廃棄処分されていたサッポロビール会社のビール粕を一手に買い取り、飼料として組合員に配付したからだ。また麦ぬか(フスマ)などの飼料を卸元から一括購入して組合員に配付する共同購入も行い、育牛・市乳販売などの協議も行った。

その後、牛痘製造のため牛を飼育している医師に招かれて上京し、2年ほど東京にいたが、バター製造に将来性を見出して帰札し、牧場経営と同時に量り売りの市乳販売を始めた。

明治35年(1902)、白石村上白石(今

の菊水1~3条3~5丁目付近)の20分の1の未開地にサイロなどをもつアメリカ式の牛舎を建て、有畜農業、酪農業の草分けとなった。当初は20頭、最も多いときは83頭の牛を飼育した。

アメリカの技術を取り入れ、日本の近代酪農を開花させた





宇都宮仙太郎

関東大震災がきっかけで雪印バター誕生

明治39年12月に再び渡米し、冬期間の短期大学に入って学び、帰国のときには民間人として初めて優良種牛50余頭を輸入し、品種改良を進めた。北海道の酪農が全国的に有名になったのは、仙太郎が先進的な酪農を実践し、品種改良を行って酪農界を牽引してきたからで、白石は北海道の先進酪農の発信地となったのである。

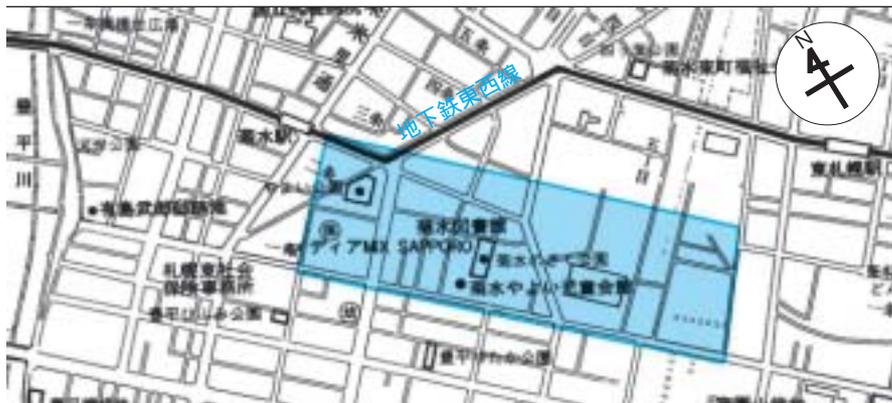


雨竜牧場の仲間と宇都宮仙太郎（矢印）

明治40年(1907)、札幌酪農組合を設立し、仙太郎は組合長となり、デンマーク農業の導入に務めた。

明治43年に牧場に近接する豊平に金星ミルク札幌練乳場(現豊平1条3丁目)を設立した。また、大正3年には北海道大学の宮脇教授の指導を得て、協力者とともに北海道練乳株式会社を設立した。当時、練乳(コンデンスミルク)はほとんどが育児用に使われていた。

大正12年(1923)に関東大震災が発生した。状況が世界に伝わると、練乳が救援物資として多量に贈られ、さらに物価上昇を抑えるために輸入関税が廃止されて乳製品がどんどん輸入されてきた。練乳会社が牛乳の仕入れを控えたために生産者はすっかり困り、大正14年(1925)にデンマーク式の共同組合



開設当初の宇都宮牧場の位置

活動を参考に北海道製酪販売組合(翌年名称を変更し北海道製酪組合聯合会=略称・酪聯・後年の雪印乳業)を結成し、バターの自主生産を始めた。製造には後の雪印乳業の社長となる佐藤貢があたった。雪印バターの第1号であり、やがて国内シェアの60%を占め、海外にも輸出されるようになった。

牧場を上野幌に移転

大正7年、宇都宮牧場内に定山溪鉄道が敷設され、牧場が分断された。牧場の一部を売り、その資金で大正13年に今の厚別区上野幌に35%の土地を買った。その隣接地に、宇都宮牧場(宇都宮・出納)を開設し、3年のデンマーク派遣を終えて帰国した娘婿の出納陽一にデンマーク酪農を始めさせた。

乳牛60頭、耕馬4頭、豚50頭、ニワトリ50羽を飼育し、道庁からデンマーク式農法実験指導農場の指定を受

け、酪農青年の指導にあたった。デンマーク農業に関心をもつ実習希望者が全国から殺到した。この年から本格的なチーズ、バター製造販売を始めた。

大正14年、仙太郎の長男の勤はアメリカに渡り、酪農を学んで昭和2年に帰国。上野幌の新しい牧場の経営に参加し、ホルスタインの改良に情熱を傾けた。

昭和2年(1927)、長男の勤は牧場を上白石から上野幌に移転した。35%の土地のうち23%は耕地とし、主として種牛の生産とバター・チーズの製造を行った。

仙太郎は昭和9年に高血圧で倒れ、昭和13年に上野幌に移って不自由な体で療養を続けたが、昭和15年(1940)3月1日、75歳で亡くなった。

(富岡秀義)



現在の白石警察署付近。北海道で初めて耕作されたアルファルファと宇都宮仙太郎